令和８年度　苫小牧市立澄川小学校経営方針

１．学校の教育目標

人間性豊かな子どもを育てる

〇自ら学ぶ創造的な態度をもつ子ども　　≪かしこく≫
〇豊かな心をもち人と協力できる子ども　　≪なかよく≫
〇健康なからだをもち最後までやりぬく子ども　　≪がんばりぬく≫

※『澄川小学校の子　心得 10 箇条』も参照

２．目指す学校像（大きな視点）

これまでの成果を生かし
〇子供のよさを伸ばす学校
〇教師のよさが生きる学校

これまでの成果
・子供や保護者の達成感や不安感に適切に寄り添い、一定の信頼を得ることができたこと

（１）　子供が毎日通いたいと思える学校
・学習の楽しさを知り、授業に参加したくなる。
・挨拶ができ、思いやりの態度があり、仲間を大切にする。
・自他を認め合う友達や教え導く先生がいる。
・望ましい集団意識とともに自己を高め、成長していく実感がある。
・子供の実態に寄り添う適切な学びの場がある。
・学校全体で、いじめや不登校の未然防止に取り組む。
・義務教育９か年や将来に向けた視点から子供の成長を考える。

（２）　教職員がウェルビーイングを高める学校
・自己の強みを生かし、互いに認め合う。
・教育に携わる誇り、専門職としての意識、喜びを感じている。
・必要な情報を共有し、同僚性や協働性を発揮しながら、効果的な指導を実践する。
・業務の工夫に取り組み、ゆとりを見付け、明日の活力に生かす。
・保護者や地域の方々に信頼される。

（３）　保護者が、子供を安心して通わせることができる学校
・子供が毎日元気に学校に通える。
・教師が、保護者の気持ちに寄り添い、対応する。
・学校や学級の様子がよく分かる。

（４）　地域の一部である学校
・子供が校外でも、規律を守り、元気に過ごす。
・子供が地域をふるさととして誇りに思っている。
・地域にとって学校の様子がよく分かり、互いに身近な存在である。

３．学校経営の今年度の重点方針（小さな視点）

①「主体的・対話的で深い学び」を進め、資質・能力を育む学校（かしこい子）

キーワード　☆主体的・対話的で深い学び、子供が自律的に学ぶ授業
☆ICTの効果的な活用　☆業務の効率化

子供の将来を見据え、人生を支える学力や生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続ける力を身に付けさせる必要がある。そのために、本市の授業改善の推進に向けた共通取組事項「焦点化・イメージ化・視覚化」に基づく授業改善を推進するとともに、校内研修においては、「単元マップの充実」「子供が学び方を選択できる授業」など子供が「自律的な学習者」に近づくよう重点的に取り組む。

また、ICTの効果的な活用の充実と学力向上の関連を図る。「話す」「書く」「読む」などといった従来の学習スタイルを大切にしながら、児童がICTを将来効果的に活用できるための礎を築くことができるようにする。なお、このことが、業務の効率化にもつながるよう意識することも必要であり、例えば、校内ネットワークを活用した諸連絡・会議の簡略化など校務DXの推進を目指したい。

〈数値目標　児童〉※（　）内数字は令和６→７年　数値が一つのものは今年度新設
「授業が楽しい」　９０％以上(84→88)
「タブレットを活用した授業は楽しい」９０％以上(93→93)
「計画的に家庭学習に取り組んでいる」８５％以上(83→85)
〈数値目標　教師〉
「ICTの活用を工夫している」１００％(63)
「業務改善に取り組んでいる」１００％(80)

②子供が安心して学べる環境づくりを推進する学校（なかがよい子）

キーワード　☆全ての教育活動で行う道徳教育・生徒指導
☆自己肯定感・自己有用感を育む指導
☆教育的ニーズの把握と必要な支援の充実

常に、児童に寄り添いながら、温かく厳しい適切な指導を推進し、児童が「学校が楽しい」と感じるよう、学校・学級が自己肯定感・自己有用感を育む居場所となるよう努める。指導の場については、全ての教育活動を通じて行い、学習指導要領に示された教育活動の本来のねらいと併せて、望ましい人間関係づくりにつなげることが大切である。

いじめの未然防止に向けて、児童が主体的に考える活動を通して、全ての児童が相手に対する思いやりをもち「いじめを絶対許さない」と考えることができるようにする。

不登校の未然防止についても、同様に「学校は楽しい」と思えるような学級経営に努め、段階に応じた指導を、保護者や関係機関等と連携し、継続的に推進する。

とはいえ、生徒指導に係る案件が発生した際は、速やかに情報を共有し、解決に向けた方策を探り行動する。案件の内容によっては、保護者・関係機関と連携を図る。

また、特別支援教育を推進するため、専門性の高い職員との連携を強化しながら、児童や保護者の教育的ニーズの把握に努め、組織的に対応する必要がある。

〈数値目標　児童〉
「学校が楽しい」　９０％以上(84→88)
「友達に思いやりの心をもち仲良くしている」１００％(95→89)
「困ったことを先生に相談できる」９５％以上(78→78)
〈数値目標　教師〉
「児童の課題について、学年や管理職、保護者などと連携を図りながら対応している」１００％(100)
「適切な学びの場の提供について何等かの取組を行った」１００％(100)

③健康な体づくりを進め、粘り強く生きる力を育む学校（がんばりぬく子）

キーワード　☆望ましい生活習慣
　　☆体を動かす習慣

今と将来をたくましく生き抜くために「健康な体」が大切であり、そのためには、「体力の向上」「健康の保持増進」が欠かせない。

「体力の向上」については、日頃から体を動かす習慣を身に付けるため、学校では体育の授業や休み時間の遊びの工夫を図る。「健康の保持増進」については、フッ素や給食に関わる指導や、関係機関と連携した指導、望ましい生活習慣を身に付けさせる指導を推進する。

とはいえ、望ましい生活習慣などの指導については、家庭生活が主たる場面であることから、「早寝・早起き・朝ごはん」や、テレビ・スマートフォン・ゲーム機器等の使用の約束事など、家庭への周知・連携が重要である。併せて、児童自らの自覚の高まりを促す指導の工夫が必要である。

〈数値目標　児童〉
「規則正しい生活を心掛けている」　９０％以上(77→85)
「休み時間や放課後に進んで体を動かしている」９０％以上(81)
「メディアの使い方に気を付けている」９５％以上(82→79)
〈数値目標　教師〉
「望ましい生活習慣が身に付くよう指導・周知を図っている」１００％(90)
〈数値目標　保護者〉
「メディアの使い方について指導をしている」９５％以上(82→85)

④保護者・地域に信頼される学校

キーワード　☆保護者や地域住民との連携
　　☆地域のよさを知る児童の育成

児童はそれぞれの保護者にとってかけがえのない存在であり、理想の子供像が存在することから、保護者の教育的ニーズを理解し、指導に生かす必要がある。しかし、時には、児童の成長にとって望ましくない状況が生じることがあり、その際には、学校は毅然とした姿勢で助言・対応する必要がある。そこで、学校として報・連・相を徹底し、必要に応じて関係機関との連携を図りながら、組織的に対応する。

「地域とともにある学校」「社会に開かれた教育課程」という考え方に基づき、地域と連携した教育活動を推進する。その際、教育課程と地域のニーズにおけるいくつかの一致点が見いだせるよう留意する。また、そのような教育活動を通して、児童が苫小牧のよさに気が付くことができるようエ夫する。

これらのことを充実させるため、学校から情報発信を積極的に行う。そこで、各種通信や学校ＨＰ、学校運営協議会を効果的に活用する。

〈数値目標　児童〉
「苫小牧や自分の住んでいるところのよさを知っている」８５％以上(85)
〈数値目標　教師〉
「情報発信を行っている」１００％(100)
〈数値目標　保護者〉
「困ったことを学校に相談できる」９５％以上(86→86)

⑤その他　よりよい学校づくりのための取組（キーワードのみ）

- **単元を見通した学習計画（単元マップ）の作成と共有**
- **一部教科担任制の実施（３年生以上）**
- **チャレンジテストで全道平均以上**
- **安全確保を目指した教育活動**
- **土日祝日は学校で仕事をしない工夫**
- **金融（消費者）教育の実施と働く人の魅力が伝わる教育**
- **教育課程の適切な実施→時数確保と業務改善のための工夫**
- **教員の資質向上（通常→研究所１講座以上・特支→研究所・あかりなど２講座以上）**

（別項目）エリア会議との関連（新設）

教育基本法では、教育の目的を「人格の完成を目指し～」と示している。人格の完成は、小学校段階だけでも、中学校段階だけでもなく、生涯にわたって目指すべきものである。小学校段階は児童一人一人が将来にわたって学び続ける基礎を養う重要な時期であり、子供の将来を見据えた教育を推進する必要がある。その際、各学校の段階で目指すべき姿はあるべきであり、本校においてはエリア会議の「目指す子ども像」が一つの目安となる。

緑陵中学校区学校力向上エリア会議

目指す子ども像

社会で活きる実践的な力が身についている子ども

（学力向上部会）

主体的に学び合い、共に支え合う子ども

（特別支援教育部会）

集団の一員として努力する子ども

（生徒指導部会）

豊かな心を持ち、思いやりのある子ども

これらの内容は、学校経営方針に網羅しているため、特段、「新しいこと・特別なこと」というわけではないが、これらのことを意識してほしい。